

株式会社ミツギ

平成25年度

■事業計画名

航空機次世代エンジン実験用部品の試作開発及び設備導入

■概要

航空機次世代エンジン燃焼実験に使用するオープン／クローズノズルの試作開発に伴い、熱電対センサーの新たな取付方法を提案すると共に設備導入による精度向上と細穴加工技術の確立。

併せてJISQ9100認証取得による本格的な航空宇宙産業への進出を目指す。

■分類

- ＜対象類型＞ ものづくり技術
精密加工
接合・実装
- ＜事業類型＞ 成長分野型（航空・宇宙）
試作開発＋設備投資

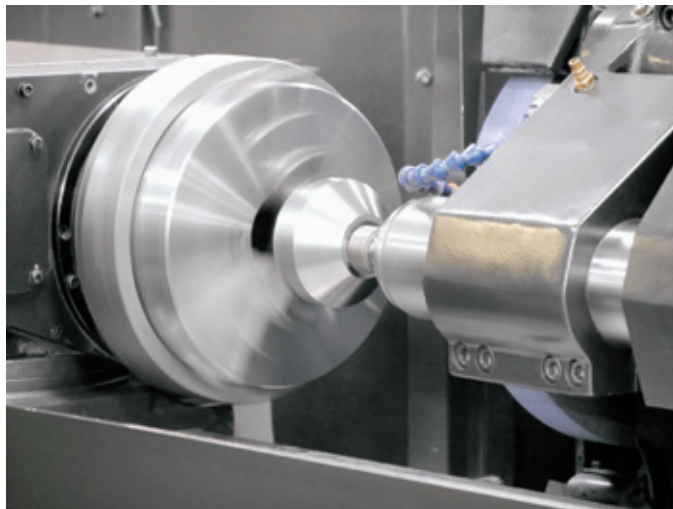
■成果

次世代航空機実験用部品であるオープン／クローズノズルの試作開発にあたり、新たな熱電対センサーの取り付け方法及び立形マシニングセンタ導入による精度向上と細穴加工技術の確立に取り組んだ。

熱電対センサーの取り付けにあたっては、新たな取り付け方法により断線しやすい材質（インコネル）のセンサーであっても以前より断線のリスクを回避でき、かつ安定した取り付けが可能となった。

細穴加工及び加工精度については、導入設備による機械性能向上により、刃物の摩耗低減、加工時間の短縮、安定した品質の確保など期待通りの成果を得られている。

今後は、航空宇宙分野における他の試作開発も視野に入れ、認証取得などを含めた同業界における本格的な市場参入を目指したい。



好機逸すべからず

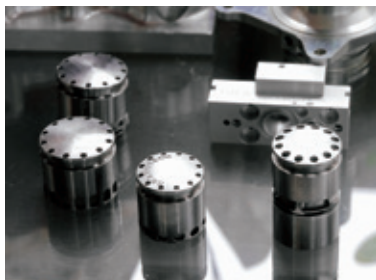
「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社ミツギ（東御市）

難削材を中心とする金属切削加工技術を活かし、次世代航空機産業の一翼を担う。

航空機分野が売上げの3分の1

2015年11月12日、国産初のジェット旅客機・MRJが初飛行に成功しました。航空宇宙産業に関わる長野県内企業にとっても、市場拡大へ大きな期待を抱かせるフライトでした。



自動車ブレーキ部品

ミツギは1982（昭和57）年、満木大社長が東信地区大手メーカーの生産技術および治工具の製造部門を経て、創業。治工具、自動車部品等の試作品などの金属切削加工を手がけ、NC加工機が主流になると航空機部品分野にも進出しました。現在、部品やその金型、検査治工具など、航空機分野が同社売上げの3分の1を占めるまでに成長しています。

難削材の金属部品加工を得意とし、チタン、ハイス銅、PX 5、SKD、インコネル、アルミなど、さまざまな金属の切削加工を行っています。

ものづくり補助金では、航空機分野の実験用部品の試作開発に関わる設備を導入。次世代航空機産業の一翼を担う分野で新たな投資を行いました。

「航空宇宙関係産業はスパンが長く、日本ではMRJなど将来に膨らむ要素もあって楽しみ。ただ、それ以外の分野をどう伸ばしていくかが課題となっています」。

満木社長は電気自動車等の普及で自動車部品点数の削減が予想されることから、金属切削加工業界の淘汰が進むのではないかと危惧。さらに高精度な3Dプリンターの開発により、試作業界も岐路に立っていると言います。「非常に厳しい品質管理が求められる航空機分野で3Dプリンターはまだまだ使えないと思いますが、あまり楽観的に考えない方が良くかなとも思っています」。

農商工すべての活性化が大切

満木社長は東御市工業振興会会長として、地域のものづくり企業の発展にも尽力。地域企業とし

てどう生き残りを図っていくかについて、さまざまに考えを巡らせています。

そのひとつが、農業と工業のコラボレーションの推進です。フランス農業は日本と同様、小規模農業が主流でありながら利益率がとても高い。それは工業会が農作業を軽減する機械を積極的に開発、普及させているところも多いようです。同振興会では農業と工業がお互いにメリットのある結びつきを深めるための取り組みを始めています。

「東御市のものづくり会社が集まり、それぞれ技術ノウハウを出しあって何かを作っていければ、個々の生き残りにもつながります。本当に豊かな社会を実現するためには、農業、商業、工業、すべてが活性化する必要があります。そのためにみんなで考え、新しいものを生み出していくことが大切です」。

満木社長はこのように話し、工業と農業、商業との連携を深めることで東御市全体の活性化を



5軸加工機など最新鋭NC加工機が並ぶ

図っていくことの大切さを強調。「私も東御市活性化のために役立てることをしていかなければいけないと思っています」。



株式会社ミツギ

代表者 代表取締役 満木 大
創業 1982（昭和57）年8月
資本金 2,000万円 従業員数 35名
本社 東御市加沢1335-2

TEL.0268-62-2361 FAX.0268-62-2369

事業内容 精密治工具、航空機部品、自動車関連部品等の金属切削加工

